

学校教育目標 ◎よく考える子供 ○思いやりのある子ども ○じょうぶな子ども
--

目指す学校像 ◎進んで学び、基礎基本となる学力を身に付け、思考力を高める児童 ○生活習慣を定着させよりよい人間関係を築く児童 ○健康で安全に過ごせる児童	○[地域の教育資源を最大限に活かし、多くの人とのかかわりの中で様々なコミュニケーションの場を通じて、児童一人一人が社会の中でたくましく生きる力を育む学校]	○教師、児童が「命」と「志」を大切に学校
目指す児童像 ○授業改善を継続する教師 ○子供の豊かな心育成する教師 ○児童の健康安全を促進していく教師		

領域	中期学校経営目標	短期学校経営目標	具体的方策	取組(努力)指標		成果指標		分析コメント		改善策	
				中間	年間	中間	年間	中間	年間	中間	年間
確かな学力	学力の基礎・基本となる力の定着や、主体的に学ぶ力を育成する	分かる授業の展開により学習の基礎・基本の定着	校内研究、校内OJTを中心とした授業力の向上や、めあてとまとめを提示した分かりやすい授業の実践	2.71	3.15	2.7	3.2	指導力に個人差があるので人材育成をしていく必要がある。学習の基礎・基本を定着させる指導の徹底を図る必要がある。	授業のめあてとまとめが一貫していないところがあった。授業力の向上を実感する研修の機会を中々もつことができない。	学年間のみならず、教科の専門性に長けた教員が若手教員等の授業に入って授業を行い、教員の学びの機会を意図的に設定する。	学校全体で互いの授業から学び合う雰囲気をもっと高めていく。全員が校内の教員へ授業公開の機会を学期に一回は設定する。
		1人1台端末の効果的な活用	各教科において、1人1台端末を効果的に活用した授業の実践	1.85	2.35	1.9	2.4	タブレットの使用から頻度を上げる必要がある。低学年は毎日活用することが難しい状況にある。	タブレットを利用する教科に偏りがある。	どの教員もICTを使用することを週ごとの指導計画に記載する。各教科のどの単元でICTを活用したか年間を通して記録し、次年度に校内で共有する。	各教科のタブレット活用実践を校内で共有する。各教科のどの単元でICTを活用したか年間を通して記録し、次年度に校内で共有する。
		家庭学習の習慣化	家庭と連携した宿題等、家庭学習の習慣化	3.05	3.29	3.1	3.3	家庭学習が定着しない児童がいる。家庭との連携が難しい児童がいる。	8割ほどの児童は家庭学習が定着しつつあるが、定着していない児童が固定化している。	家庭との連絡を密に取り、児童にも丁寧に声掛けをしていく。	家庭と密に連絡を取り、状況の説明と協力を求める対応を個別に行っていく。
豊かな人間性の育成	基本的な生活習慣を定着させ、自分に自信をもたせ、よりよい人間関係を築く	基本的な生活習慣の徹底	「あいさつ」や「適切な言葉遣い」を積極的に行う取組の実施	2.55	3.15	2.6	3.2	担任以外にも自分から挨拶をすることを課題にする児童が多い。	自分から挨拶をする児童が学校全体で増えてきた。	担任以外に対する挨拶や言葉遣いについて教員間での共通理解の下、指導にあたる。	朝の昇降口での教員の挨拶指導を継続し、誰にでも挨拶できる児童を全校で育てていく。全校集会等で、挨拶について取り上げ児童への意識を啓発していく。
		日常生活の中で、よりよい人間関係の構築	道徳や特別活動の取組を中心に、各教科、生活指導を通して、いじめ防止の取組の実施	3.11	3.47	3.1	3.5	高学年になるにつれて児童同士の関わりや人間関係が固定化している。	いじめをしない、させない、許さない意識が児童間で高まってきている。	学級で授業や学級活動を通して日常的に話し合う機会を多く持つ。多くの児童と関わる機会を意図的に設定する。	道徳の授業や日頃の指導を通して、相手意識をもって行動できるよう指導を継続していく。
地域との連携	保護者、地域等とのつながりによる教育力の向上	情報公開に努める	学級通信、学年だより等のホームページへの掲載や学級通信やメールを活用した積極的な情報発信	2.4	2.42	2.4	2.4	学級だよりの内容を充実させていきたい。学級だよりを中々発信できない。	ホームページの更新が滞ることがある。	学級だより、学校ホームページの日記のページを活用し、情報発信を学校として定期的に行っていく。	ホームページ更新の担当を週ごとに決め、教員間の意識を向上させる。また、気分よく教員が夕食等で声をかけ情報発信について全体の意識を醸成する。
		信頼される学校組織づくり	保護者、地域等の来校者に対する丁寧なあいさつや対応の徹底	3.77	3.76	3.8	3.8	来校者や保護者に対して日頃から進んで挨拶したり、丁寧な対応を学校全体で心掛け取り組んできた。	学校公開や普段の学校生活を通して、保護者、地域から概ね来校者に対する丁寧な対応ができていてと捉えていただいている。	年度当初から継続した挨拶や丁寧な対応について教職員間での共通理解の下、取り組んできた。今後も継続して行っていく。	年度当初から継続した挨拶や丁寧な対応について教職員間での共通理解の下、取り組んできた。今後は校内美化も含め、継続して行っていく。
健康・体力	健康でよりよい生活を送る力を育成する	体力の向上を目指し、体育授業、体育的活動の工夫	体育授業等、体力向上に向けた取組の実施	2.83	3.17	2.8	3.2	体育の授業改善が中々進まない。児童に運動の楽しさを更に関心させる必要がある。	体力が向上したと感じている児童に偏りがある。どの児童も運動の楽しさや体力の向上を実感させていく必要がある。	体育の授業改善、指導方法の工夫についてOJTの機会を設ける。体育の指導に長けた教員が体育授業を公開し、校内の教員間で学ぶ機会を設ける。体育の中に遊びの要素を取り入れ、運動に親しませるよう授業づくり	ペア学習、グループ学習を取り入れ、関わりを通して、お互いを高め合ったり友達と運動を行う楽しさや達成感を感じられるような授業を行っていく。全校で、友達と関わりながら運動に親しむ機会を意図的に設定する。
		健康・安全教育を推進し児童の意識を高める取組の実施		3.09	3.38	3.1	3.4	児童の安全に対する意識を向上させる。落ち着いて行動することができず、怪我をする児童がいる。	児童の安全に対する意識が少しずつ醸成されてきた。避難訓練を校庭までの避難にする機会を増やしたことも集団を意識して安全に行動することにつながった。	毎月の避難訓練や安全指導、全校集会の機会を捉え、全校での指導を継続していく。給食指導において黙食を徹底する。	どの学級でも実態に応じて、毎日の朝学活の時間や避難訓練の事前、事後指導を継続して行っていくことで更に児童の安全に対する意識や行動力を高めていく。